

このたび日本原子力学会保健物理・環境部会の第7期部会長をお引き受けすることになりました京都大学原子炉実験所の高橋千太郎です。大変光栄なことで、身に余る職責ですが、精一杯つとめさせていただきますので、どうぞよろしくご指導の程、お願い申し上げます。

さて、昨年の3月に起きた東京電力福島第一原子力発電所の事故を契機に、原子力・放射線の安全に関する分野は極めて注目されています。長く放射線安全研究の分野で活動してきた私にとって、このような形で当該分野の研究が注目されるようになったことは非常に複雑な心境です。今回の事故とその後の状況を見ていて、これまで何をしてきたのか、自責の念にとらわれています。また、自分としては原子力・放射線に関わる保健物理・環境科学研究の重要性を訴え、それなりの努力をしてきたつもりでしたが、原子力は比較的安全な技術、という甘えがあったのではないかと感じています。

一方、事故後の、本部会の会員を中心とする保健物理・環境科学分野の研究者・実務者の現地での活動をはじめとする献身的な貢献、その知識経験と技術力を活かした活動、一連の研究報告や技術報告、それらを拝見すると、私たちがこれまでに進めてきた関連分野の研究やその成果が実地に利用され、事故の収束に役立ち、それによって事態は良い方向に向いつつあるという一筋の明るい光も見えてきているように思えます。

このような難しい時期の部会長ですが、山澤（名大）並びに服部（電中研）両副部会長をはじめ、部会運営委員、部会員各位のご協力を得て、本部会の活動が福島原子力発電所事故の復旧・復興に貢献し、また、この分野の科学研究が一層進展していくように微力ながら尽くす所存です。部会員各位の一層のご協力をお願いし、就任のご挨拶とさせていただきます。

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会  
第7期部会長  
高橋千太郎